

令和3年度 ことばの冒険の旅「私のおすすめの本」コンクール  
優秀賞（ことばの冒険者賞）

「フレデリック～ちょっとかわったのねずみのはなし～」 レオ=レオニ 作

銚子市立高神小学校3年 根本 陽友里

みなさん、とつぜんですが質問です。野ねずみたちは、冬が来る前、何をしていますのでしょうか。正解は食べ物を用意をしているのです。野ねずみたちは、寒い冬を乗りこすために、夏の間、せっせと食べ物をたくさん集めるのです。あれ？どこかで似たようなお話を聞いたことがありますか。そうです。「ありとキリギリス」のお話にてているのです。でも、このお話のおもしろいところは最後にあります。予想外のてん開が待っています。

少しだけあらすじを紹介していきます。最初にも言いましたが、野ねずみたちは冬に備えて食べ物を集めていました。一日中はたらい回ししていました。けれど、フレデリックという野ねずみはみんなとちがいました。なか間たちが、

「フレデリック、どうして君ははたらかないの？」

と、たずねると、

「寒くて暗い冬のために、お日さまの光を集めているんだ。」

と、フレデリックは答えます。（おもしろいな、そんなことができたらいいのにな。でも、そんなことできるわけがない。早くみんなといっしょにはたらけばいいのに。はたらかないと冬に困るのは自分だよ。）私はそう思っていました。

冬が来ました。最初は、食べ物もたくさんあって、たくさんお話をして、みんなぬくぬくと楽しんでいました。けれど、少しずつ食べ物が減っていき、こごえそうになり、おしゃべりをする気にもなれないでいました。その時、みんなはフレデリックが集めたお日さまの話の思い出し、フレデリックに聞きました。そして、フレデリックは・・・。

私は、この続きのてん開がとても好きです。

フレデリックは夏の間、みんなといっしょにはたらかないでいたけど、フレデリックにしかできない仕事があったと思いました。フレデリックは、自分にしかできない仕事をみつけてみんなのためにお日さまの光を集めていたんだとおもいました。みんなも、はたらかなかつたフレデリックをせめたりしないで食べ物をわけてあげていてやさしいと思いました。私もフレデリックと野ねずみたちのようになか間を大切にしていきたいです。

このお話は、公正図書館で借りられるので読んでみてください。この本の作家、レオ=レオニさんの本はたくさんおもしろくて不思議な本があるので読んでみてください。

#### 講評

フレデリックは、みんなのために自分にしかできない仕事をしていたんですね。このお話をよく読み込んでいる様子がうかがえます。集めたお日様をどうしたのでしょうか。